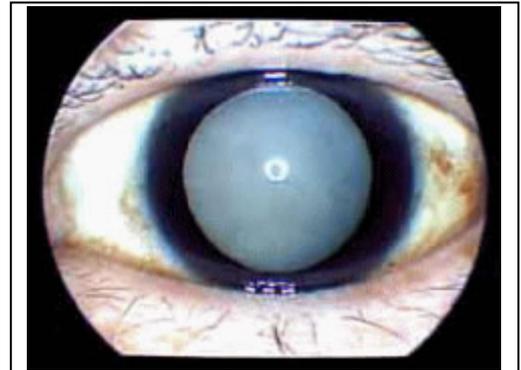


<白内障について>

1 白内障ってどんな病気？

眼球はよくカメラにたとえられます。レンズの役割をしている角膜・水晶体、絞りの役割をする虹彩、フィルムの役割をする網膜、などが眼球を構成しています。

この中の水晶体といって虫眼鏡のような形をしているものが白くにごり、視力低下するのが白内障という病気です。加齢が白内障の原因としては最も多いですが、糖尿病、薬の副作用などでも起こります。白内障になるとかすんで見える、明るいところでまぶしい、などの症状が徐々に出現してきます。



↑白内障が極端に進行した症例

2 白内障はいつごろ手術したらいいの？

白内障は、進行すると視力が低下し、かすんで見えるようになったり、白い物が黄色く見えたりと、さまざまな障害が出てきます。

手術時期はご本人が日常生活や仕事で不便を感じるようになった時が手術の時期と考えられます。

ただし白内障は徐々に進行するため患者様ご本人が白内障の進行に気づかないこともあります。また、最新の白内障手術方法である超音波乳化吸引術は、水晶体(白内障)を砕きながら摘出しますが、あまり白内障が進行すると水晶体が硬くなり砕きにくくなります。

主治医とよく相談した上で手術時期を決めるのがよいでしょう。

3 白内障手術について

当院での白内障手術は、超音波水晶体乳化吸引術といわれる最新の術式で行います。白内障手術を予定した患者様には、術前に手術を安全に受けていただくために、いくつかの検査をさせていただきます。眼科専門の検査もあれば採血などの全身検査もあります。手術に支障がないと判断した場合は、術前術後の注意事項を理解していただいた上で手術の運びとなります。

※白内障手術

白内障手術は、超音波水晶体乳化吸引術といわれる最新の術式で行います。超音波を利用して混濁した水晶体を砕きながら、吸引していく手術です。この手術を行うことで手術時間は以前に比べ短縮されました。

※超音波乳化吸引法

当院で主に行っている手術は、白目(強膜)と黒目(角膜)との境界部をメスで小さく切開(4mm 前後)し、白内障になり混濁した水晶体に超音波を当てて粉碎しながら吸引する、超音波乳化吸引法という術式で手術を行います。その後人工水晶体(眼内レンズ)を挿入します。

しかし白内障の進行程度によっては超音波乳化吸引術が困難な患者様もいらっしゃいます。その場合には切開幅を大きくした別の手術(囊外水晶体摘出術)をおこないます。もちろん囊外水晶体摘出術で手術を行っても眼内レンズは挿入します。

※人工水晶体(眼内レンズ)

当院では現在シリコンやアクリルを素材とした折り曲げ可能な、眼内レンズを使用しています。以前のようにハードコンタクトレンズと同じような素材ではないため、折りたたんで眼内に挿入することができます。したがって4mm 前後という小さい創口ですみ、縫合する必要もありません。場合により縫合することもあります。縫合数が少なくてすむため、術後の乱視も少なく視力の回復も早いのが特徴です。

眼内レンズは白内障手術を受けるすべての患者様に挿入予定をしていますが、症例によってはチン小帯という水晶体の支えが弱かったり、水晶体の袋(水晶体嚢)が弱かったりと、挿入できない場合も考えられます。そのような場合は無理をせず、二度に分けて眼内レンズを挿入することもあります。